

平成31年産 麦作情報 第3号

平成31年3月25日

宮城県亘理農業改良普及センター
NOSA I 宮城亘理名取支所

電話0223(34)1141 FAX0223(34)1143
電話0223(34)5031 FAX0223(34)5032

1 麦生育状況

1) 生育調査結果 (調査日:平成31年2月10日, 3月22日)

品種名	地区名	2月10日調査		3月22日調査			出穂予測日 (全莖数の40~50%が 出穂した日)
		草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	幼穂長 (mm)	
シュンライ	名取市本郷	8.7	743	13.6	1212	3.2	4/26~5/1頃
	名取市植松	9.8	1210	18.4	1748	3.7	4/25~4/30頃
	名取市下増田	9.9	690	12.7	624	4.3	4/23~4/28頃
	名取市愛島	15.0	864	21.2	498	7.0	4/19~4/24頃
	名取市高館	5.4	340	11.3	550	2.0	4/29~5/4頃

- * 3月22日時点では、すべてのほ場で目標莖数 500 本/m²前後を確保しています。幼穂形成期 (目安: 幼穂長 1~5mm 程度) に入っています。
- * 幼穂長を元に出穂日を予測したところ、4月中旬~5月上旬と推測され、今後の天候によっては出穂がさらに早まる可能性もあります。(出穂: 芒を除く穂先が、葉鞘より現れた莖の割合が 40~50%に達した時)
- * 出穂後 7~10 日後には開花となり、赤かび病防除の時期を迎えますので、適期防除に向けて準備を進めましょう。

2 今後の栽培管理

1) 雑草対策

◆ 発生状況に注意し、必要に応じて防除を行いましょ！

- * 今後気温の上昇に伴い、雑草の生育が旺盛になることが予想されます。発生状況に注意し、草種・葉齢に応じて適期防除を実施しましょう。

2) 追肥（幼穂形成期追肥，減数分裂期追肥）

◆ 「穂数の増加」「粒数の増加」に向けて追肥を実施しましょう

- * 幼穂形成期追肥は「穂数の増加」，減数分裂期追肥は「粒数の増加」に有効です。大麦では，追肥が遅れると硬質麦の発生が多くなるため，適期の追肥に努めましょう。
- * 十分な生育量が確保されているほ場では，過剰な追肥は倒伏を招きますので，注意しましょう。

表1 大麦における追肥の施用時期と施用量の目安（再掲）

追肥の種類 (生育ステージ)	幼穂形成期 (幼穂長2~3mm) (3月中旬~4月上旬)	減数分裂期 (幼穂長20~30mm) (4月中旬~4月下旬)	穂揃期 (8~9割が出穂)
目的	有効茎歩合の増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟の向上	—
10月中旬に 播種したほ場 (生育量が多い)	窒素成分 2~2.5kg/10a (硫安 5~10kg/10a)	窒素成分 2~2.5kg/10a (硫安 5~10kg/10a)	硬質麦 防止のため 実施しない
11月以降に 播種したほ場 (生育量が少ない)	窒素成分 1.5~2kg/10a (硫安 7.5~10kg/10a)	窒素成分 1.5~2kg/10a (硫安 7.5~10kg/10a)	

- * 時期は平年の場合のおおよその目安であり，実際には現地ほ場の幼穂長を確認し，追肥時期を判断しましょう。

<参考> 減数分裂期追肥の時期を推定する方法

- * 止葉の葉耳間長を観察することで，追肥の時期を推定することができます。
- * 葉耳間長が±0mm 以上に達した茎が，全茎数の1~2割となった時期が減数分裂期の目安です。幼穂長とあわせて確認してみましょう。

